

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007 年度 ～ 2010 年度

課題番号：19203029

研究課題名（和文）

プログラム評価理論・方法論を用いた効果的な福祉実践モデル構築へのアプローチ法開発

研究課題名（英文） Methodological Development for Building Evidence-Based Social Care Programs Using Program Evaluation Theory and Methods

研究代表者 大嶋 巖 (OSHIMA IWAO)

日本社会事業大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：20194136

研究代表者の専門分野：社会福祉学、プログラム評価学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：プログラム評価、プログラム理論、社会福祉実践プログラム、福祉アウトカム指標、プロセス評価、効果的援助要素、フィデリティ評価、科学的根拠に基づく実践（EBP）

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、1980 年代以降アメリカを中心として、理論的にも実践的にも急速に発展して来たプログラム評価の理論と方法論を用いて、新しく導入されつつある日本の社会福祉実践プログラムを、科学的根拠に基づく効果的なプログラムモデルとして構築するためのアプローチ法を開発・定式化し、社会福祉実践プログラムに関わる関係者間で共有することにある。

そのために、高齢者福祉領域、児童・思春期福祉領域、障害者福祉領域、精神保健福祉領域の新しい実践プログラム開発に関わる関係者が合同の研究会を組織し、集中的な議論を重ねながら、各領域の社会福祉実践プログラムにプログラム評価の理論と方法論を適用して、それらが、より効果的なプログラムに発展するためのアプローチ法を検討し、関係者間で共有する。その上で、それぞれの領域で重要な位置づけを持ついくつかの新しいプログラムを取り上げ、検討したアプローチ法を適用して、より優れた効果を持つプログラムに発展する可能性を検証する。この検証結果を踏まえて、日本の社会福祉実践プログラム領域に適合的で、より効果の上がるプログラムモデルの開発・構築に有効なアプローチ法を提案し、社会福祉学関係者間における合意形成に資することを目指す。

## 2. 研究の進捗状況

高齢者福祉、児童・思春期福祉、障害者福

祉、精神保健福祉領域の新しい実践プログラム開発に関わる関係者が合同の研究会を組織し、これまで 20 回以上にわたり集中的な議論を重ねながら、各領域の社会福祉実践プログラムにプログラム評価の理論と方法論を適用して、それらがより効果的なプログラムに発展するためのアプローチ法を検討し、関係者間で共有して来た。

研究プロセスの第Ⅰ～Ⅲステージ、すなわちⅠ) 効果的モデル構築のためのアプローチ法検討と合意形成、Ⅱ) 予備的プログラム評価調査の実施、Ⅲ) 暫定効果モデルの構築については昨年度までに研究され、それらが実施できたプログラム評価班においては、第ⅣステージであるⅣ) 全国プログラム評価調査を実施した。

全国プログラム評価調査に参加する施設をプログラムごとに全国から選定し、暫定効果モデルに基づくプログラムを実施し、アウトカム評価とプロセス評価・フィデリティ評価を行った。参加施設の担当者には第Ⅲステージで作成した実施ガイドライン・マニュアルに基づいて研修会が開催され、プロセス評価・フィデリティ評価の施設調査も研究協力者である大学院生が施設・活動を訪問して、観察やヒヤリングに基づいて行った。

障害者福祉領域における就労移行支援事業と精神保健福祉領域における退院促進支援事業が先行して進められ、各プログラム評価のモデルケースとなっている。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究計画書に沿いながら、研究を進めている。各領域のプログラム評価の進行に若干のバラツキはあるものの、福祉プログラム評価法アプローチの開発という課題について検討する上では大きな支障はない。

### 4. 今後の研究の推進方策

今年度は、本研究の最終年度であり、社会福祉実践プログラムモデル構築のためのアプローチ法を検討し、その方法を提案するための作業を進めている。

現在、社会福祉実践プログラムモデル構築のためのアプローチ法をまとめるための枠組みがほぼ整理され、たたき台となる原案を作成中である。

この原案に基づいて、6月下旬以降、プログラム評価の理論と方法論に通暁した有識者(社会福祉領域、公衆衛生領域、プログラム評価領域の研究者等)に、作成したアプローチ法を提示して意見を求めていく。また、アメリカ、中国、韓国から、対人サービスのプログラム評価の専門家を招へいし、作成したアプローチ法に対する意見を求めるとともに、国際セミナーを開催して関係者とのアプローチ法の有効性について幅広く議論する。本研究で確立した「効果的な社会福祉実践プログラムモデル構築のためのアプローチ法」について、実施の指針となるガイドラインと、モデル構築のための諸様式をまとめたガイドブックを作成し、印刷・製本して配布する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

・大島巖: 精神保健福祉領域における科学的根拠にもとづく実践(EBP)の発展からみたプログラム評価方法論への貢献～プログラムモデル構築とフィデリティ評価を中心に. 日本評価研究 10(1): 31-41, 2010

・Mino Y, Oshima I, Shimodera S: Association between feasibility of discharge, clinical state, and patient attitude among inpatients with schizophrenia in Japan. Psychiatry and Clinical Neurosciences 63: 344-349, 2009

・Ito J, Oshima I, Nishio M, Kuno E: Initiative to build a community-based mental health system including assertive community treatment for people with severe mental illness in Japan. Am J Psychiatric Rehabilitation 12: 247-260, 2009

・大島巖: モデルから定着への戦略～ツールキットプロジェクトという考え方. 特集「統合失調症の家族心理教育」. 現代のエスプリ (489): 85-97, 2008

・Takamura S, Oshima I, Yoshida K, Motonaga T: Factors related to attitudes toward seeking professional psychological help among Japanese junior high and high school students. Yonago Acta Medica 51: 39-47, 2008

[学会発表] (計4件)

・大島巖: 保健・医療・福祉領域におけるサービス利用者の評価への参加とエンパワメント. 第10回日本評価学会大会シンポジウム「共同社会と評価」、明治大学、2009.11

・道明章乃、大島巖: 精神障害者退院促進支援プログラムの効果に寄与する援助要素の特定と実践導入の可能性の検討～EBSCプログラム評価法研究班3年度目の取り組み例. 第57回日本社会福祉学会総会、2009.10、東京・法政大学

・大島巖、福井里江、贅川信幸: 科学的根拠に基づくプログラム評価法の発展～効果的なプログラムモデル構築のためのアプローチ法開発. 第9回日本評価学会、同志社大学、2008.11

・大島巖、佐藤久夫、児玉桂子、他: 効果的な福祉実践プログラムモデルを構築・発展させるための方法～プログラム評価理論・方法論の適用. 第56回日本社会福祉学会自主企画シンポジウム、岡山、2008.10.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称: 該当なし

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称: 該当なし

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

該当なし